

観光農園でのGAP取得など、経営拡大に取り組んでいます

(株) 大雅 代表取締役 江崎雅教 ~岐阜県山県市~

岐阜県山県市の(株)大雅(オオガ)は、観光客向けと販売用のイチゴ栽培に取り組み、北陸や近畿、外国からの観光客が訪れているほか、直売所でのイチゴ販売も順調で安定経営を実現しています。この度、更なる経営の発展を目指してGLOBALG.A.P.を取得された、江崎代表取締役にこれまでの取組、今後の展望などについてお話を伺いました。

(株)大雅は、もともと肥料・資材の販売会社として各地で営業し、イチゴのハウス栽培の指導なども行ってきました。取引先のイチゴの観光農園の経営が順調であることを見て自らもイチゴ栽培を行うことを考え、平成26年に会社の所在地の山県市で農地を借りてイチゴの観光農園を始めました。

現在、観光農園は0.3ha、販売用の施設は0.8ha合わせて1.1haの農業経営を行っています。社員は10数名いますが、ほとんどが農外からの就職です。小売業者との勉強会でGAPに関心を持ち、平成31年3月にイチゴの観光農園0.3haでGLOBALG.A.P.を取得しました。導入の際には、社内ではGAPの良い点がイメージできていなかったことなどから様々な意見が出ましたが、少ない人員の中、自らリスク評価を行うなどGAP取得を進めました。観光農園では先例がなく、多数の観光客の方々が入り出すこともあり、収穫エリアを分けるなどの衛生面での対応の明確化に大変苦労しました。



(株)大雅 江崎代表取締役

各種センサー類をハウスに設置し栽培管理には注意を払っていますが、GAP取得により、従業員が過去のデータを確認しながら自ら改善に取り組むようになるなど姿勢が変化し大きな効果が出ています。また、規模拡大を考えていますが、販売用の出荷量が増えれば販売施設でもGAP認証を取得しバイヤーへのアピールに使うことを考えています。

会社としては、今後、栽培技術を国内だけでなく東南アジアにも展開していく取組を進めるほか、地元でもイチゴを軸に作目を増やして地元への誘客の増加を図る等地域の活性化にも貢献したいと考えています。

(株)大雅の詳細は、Webサイトはこちらをご覧ください

<http://15meijin.com/>

